令和３年度　江戸川区立鹿本小学校　学校関係者評価　中間評価用報告書

学校教育目標	◎考える子　〇やさしい子　〇たくましい子 ～わくわく鹿本小学校～	目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像	〇主体的に学び、一人一人確かな学力を身に付けた児童　【考える子】 〇善悪の判断力や規範意識、思いやりの心をもった児童　【やさしい子】 〇運動を日常化し、自ら体を鍛えようとする児童　【たくましい子】 〇歴史と伝統を引き継ぎ鹿本の子として誇りをもつ子
前年度までの学校経営上の成果と課題	＜成果＞昨年度、算数科の校内研究を行った。話し合いの場を多く設けたことにより、児童が生き生きと授業に参加できるようになった。また、どの学年においても授業中の児童の発言が増え、授業が活発になった。 ＜課題＞児童は授業に参加できるようになったが、それば学力につながっていない。本校は研究のテーマとして「学力向上を目指す授業改善」を挙げているので、児童の学力が向上するための取組を一層取組む必要がある。		

教育委員会重点課題	取組項目	評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価			学校関係者評価		年度末に向けた改善策
					取組	成果	成果と課題	評価	コメント	
いきいきと学ぶ学校づくり	確かな学力の向上	・「確かな学力向上推進プラン」の実施・改善や補習の実施などによる指導の充実と授業力の向上 ・「各教科等の連携教育プログラム」による連携の充実	・年35回の一斉補習教室 ・各学年が何に取り組むべきかを確認する。	・年間35回…100% ・学期の終わりに、必ず進捗状況を確認する。	A	B	・補習教室については確実に行うことができている…100% ・進捗状況の確認については、取り組みが明確にされていない…100%	B	・年間35回の補習教室お疲れ様 ・補習教室を充実させており、評価できる	
	読書科の更なる充実	・読書を通じた探究的な学習の充実（読書科ノートの活用、資料の収集の仕方や記録の取り方の指導、自己の考えをまとめ表現する方法の指導、朝読書と1単位時間の授業との関連付け、他教科との関連等） ・学校図書館の整備、学校図書館を使った授業の充実	・図書担当が読書科についてのOJTを行い、進捗の状況を確認する。 ・図書担当が研修を行い充実を図る。	・学期に1回、確認を行う。 ・年間2回…100%	A	B	・図書担当のOJTは1学期末に行い、全体化を図った…70% ・図書担当による、第1回目の研修を2学期におこなう…0%	B	・先生方のおすすめの本を紹介するなどして促進させてください ・OJT研修を年2回参加することは、児童のために良いことだ	
	体力の向上	・体育の授業や休み時間における全校運動遊びなど主体的な運動の実施による運動意欲の向上	・毎週金曜日に全校運動遊びに取り組む。	・年間35回…100%	C	C	・新型コロナウィルス感染症により、取り組むことができなかった…0%	C	・コロナに負けずがんばってほしい ・可能な限り取り組んでほしい	
	オリパラ教育の推進	・「オリンピック・パラリンピックレガシー創造プラン」に基づく取組、「学校2020レガシー」の設定やオリパラコーナーの充実	・オリンピック・パラリンピック教育を確実に行う。 ・コーナーの充実	年間35時間…100% ・情報を最新のものにする。	A	B	・現時点では、授業時間内で触れている…50% ・掲示を充実させた…100%	B	・ボッチャに実際に触れてほしい ・大切な教育 ・掲示の充実は良かった	
	外国語教育の推進	・授業力の向上とALTの効果的な活用	教員がT1として授業を行い、ALTと協力して授業を行う。	・全体の90%以上実施する。	B	B	・外国語指導に不安のある教員がいるため、一緒に取り組むことが多い	B	・ALTの協力はとても良い ・今後の先生方の活躍を期待する	
	健全育成に向けた取組の強化	・いじめ・不登校の未然防止に向けた魅力ある学校づくりの取組の充実 ・チルドレン・サポートチームや生活指導連絡協議会の活用	・いじめアンケートを行う ・QUテストを行う ・生活指導連絡協議会には必ず参加し情報を共有する。	・年間2回…100% ・年間1回…100% ・生活指導連絡協議会参加…100%	A	A	・いじめアンケートは1学期に1回行った…100% ・QUテストは行った…100% ・生活指導連絡協議会に参加し、情報を共有した…100%	A	・チャット等の取扱いに注意してほしい ・いじめ、不登校、児童を守ることが大切	
特別支援教育の充実	特別支援教育の推進	・校内委員会の活性化を図ることなどによる指導・支援の充実 ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の充実 ・エンカレッジルームの活用促進	・SC等による研修会を行う。 ・授業のねらいを明確にする。 ・不登校児童の支援の際の使用	・年間1回以上…100% ・めあての焦点化…80%以上 ・積極的に活用する。 ・年間2回以上…100%	A	A	・2学期始にSCによる研修を行った…100% ・めあての焦点化は図れた…100% ・現在、エンカレッジルーム利用はない	A	・校内委員会の活性化を図ることは重要	
	交流教育による相互理解の進化	・交流学習の充実	・鹿本学園との交流を行う。	・年間2回以上…100%	C	C	・新型コロナウィルス感染症により、取り組むことができなかった…0%	C	・とても残念 ・今後、交流できることを願う ・コロナ禍では仕方ない	
教員の資質向上	教員研修の充実	・学習用タブレットを活用した授業実施に向けた研修	・ICT支援員による研修を行う	・学期に1回以上行う。	A	A	・ミニ研修等も取り入れ積極的に活用している…100%	A	・支援員の上手な活用をしてほしい ・研修は必要	
	校内研究の推進	学力向上を目指す授業力向上の実践（算数科）	・年6回の研究授業	全教職員の90%以上が校内研により授業が改善できた	A	A	・現在のところ計画的に行えている…100%	A	・素晴らしい ・結果を期待している	
特色ある教育の展開	組織力の向上	組織的な対応を基盤とした安心・安全な学校づくり	・怪我、安否確認等を優先事項として取組む	・適宜、ホウレンソウを確実に行う	A	B	・抜けることがあるので、注意して取り組んでいく…80%	B	・周知の徹底を願う ・報連相は重要	